

## サブテーマ（修正後）

### 自然との調和 Co-adjustment

日本の里山にみられる自然との共生、**再生循環の知恵**や、災害大国としての経験を活かし、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気候変動対策、自然災害の緩衝等）を発揮するグリーンインフラにより、持続可能で安全かつ魅力ある都市の土台づくりを世界に向けて提案する。

### 緑や農による共存 Co-existence

地球の環境容量と生態系システムの危機に直面し、持続的な未来に向けた意識が高まる中、人々は自然とふれあうことの喜びや楽しさ、人と人とのつながりの大切さを再認識し始めている。自然を愛（いつく）しみ、自然を暮らしに活かす**農業文化に学びつつ、緑や農を介して、社会・生活基盤の維持にひとりひとりがジブンゴトとして積極的に関わる**ことにより、ともに**分かち合い支え合う「グリーンコミュニティ」**のあり方を提案する。

### 新産業の創出 Co-creation

人々の価値観やライフスタイルが多様化する中、いのちとくらしを支え、文化や豊かさをつくる**花き・園芸・農の役割が再認識**されている。**博覧会を実験の場とし、花き・園芸・農の高付加価値化や新技術・新品種の創出、異業種連携による生命産業の領域拡大など、時代の先駆けとなる新たな価値を創造する産業の創出・育成**を提案する。

### 連携による解決 Co-operation

国内外の企業や教育・研究機関、市民を含む多様な主体や国際的ネットワーク等による横断的な参加システム（連携・共創のためのプラットフォーム）を構築し、**シェアリングエコノミーの原型ともいえる日本の「農の心」**など、世界的な課題の解決につながる知恵や技術を集積し、各国の人々と**相互に発信・交流・シェア**することで、**多文化共生や友好平和、多様性を尊重する社会の実現に寄与**する。

## 価値を 再定義する Revise

世界では日々情報技術が進歩し、利便性・効率性が向上し続けているが、一方で、自然とのつながりや五感に訴えるリアルな体験の重要性が一層高まっている。博覧会では、社会の日常を支える隠れた手段としての最先端技術を活用し可視化するとともに、古来から変わらない普遍的価値を再評価・再定義し、これを新たな気づきにつなげる。

## 多様性に気付く Find

多様な主体が出会い交流することで、物事の捉え方や見え方の多様性に気づくことができ、視野を広げ、多様な価値観を活かし合い高め合うことで化学反応が生まれ、相乗効果につなげることができる。より多くの人々が博覧会の準備段階から連携し、互いを尊重し合いながら、博覧会をともに創り上げる。

## 行動変容に 繋げる Change

博覧会を通じて得られる気づきを人々の行動変容につなげるため、**アートやエンターテインメントの力を活かして訴求力を高め**、来場者が楽しみながら参加し体験できる仕掛けを展開する。この経験がきっかけとなり、博覧会後もひとりひとりがそれぞれの暮らしのなかで行動し続けるように促す。

## 分かち合う Share

ひとりひとりの行動を社会全体の変容につなげるためには、博覧会に参加し、テーマやサブテーマを体感した人々が、交流や体験で得た気づきやアイデア、行動変容の重要性を、身近な他者と分かち合い、広めていくことが重要となる。参加者が体験や博覧会のメッセージを社会にシェアし、浸透させていく一員となれる仕組みをつくる。

## 環境負荷低減を 徹底する Care

博覧会では、緑を都市に融合させ、生活空間と経済活動空間のより良い統合を目指す「グリーンシティ」の概念を可視化し世界へ発信する。このため、出展者、運営関係者はもとより、来場者も含めて、博覧会に携わる全ての関係者が環境負荷低減を徹底的に意識して行動する。

## 繋がりを広げる Connect

博覧会が、自然と人、人と人、都市と地方、上瀬谷・横浜・日本・世界、リアルとバーチャル、過去・現在・未来など、属性のまったく異なる**様々な要素が行き交う結節点**となることで生み出される**これまでにない融合や対流、新たな関係性、有機的な繋がりを**広げていく。

## 自然との調和 Co-adjustment

日本の里山にみられる自然との共生の知恵や、災害大国としての経験を活かし、自然環境が有する多様な機能（生物の生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気候変動対策、自然災害の緩衝等）を発揮するグリーンインフラにより、持続可能で安全かつ魅力ある都市の土台づくりを世界に向けて提案

## 緑との共存 Co-existence

生態系システムの危機に対し、持続的な未来に向けた意識が高まっている。人々は自然とのつながりの大切さを再認識し、本能的に自然を求め、五感で感じられるようなリアルな体験に魅力を感じるようになった。博覧会が人々を、自らの手で花や緑を生活に取り込み、美しい景観を維持するといった意識に導くとともに、将来的な環境負荷の抑制に繋げ、生活基盤の維持に各々がジブンゴトとして積極的に関わるグリーンコミュニティのあり方を提案

## 新産業の創出 Co-creation

先進国の共通課題である郊外部活性化や途上国での農村から都市への人口流入の緩和を進めるためには、職住近接といった新しいライフスタイルに合わせた産業の創出が重要である。また、環境に配慮した経済復興（グリーンリカバリー）の考え方が世界で共有される中、産業として花き・園芸・農の役割は大きい。博覧会を実験の場として、農業の高付加価値化や新技術、異業種連携による農の領域拡大、産学官連携を通じた産業育成など、新産業の創出を提案

## 連携による解決 Co-operation

横浜市の特徴である市民力や、創造性豊かな各分野の専門家の国際的ネットワークを活かすとともに、国内外の企業や教育・研究機関等へも積極的に参加を促し、日本の古来から培われた技術や知恵を活かしながら、業種横断的な参加システムを構築することで、世界的な課題解決の方法を提案

# (参考) 第1回検討会時の事業コンセプト案

## 価値を 再定義する Revise

日々、情報技術が進歩するなかで生活の利便性は向上し続けるが、その一方で、COVID-19による生活の変化もあり、自然を身近に感じるライフスタイルを求める傾向にある。**古来から変わらない価値を再評価、再定義**するとともに、日常を支える隠れた手段として最先端技術を提示し、**新たな気づきにつなげる**。

## 多様性に気付く Find

多様な主体が出会い、交流することで、**物事の捉え方や見え方の多様性に気づく**ことができ、事業の広がりや相乗効果につなげることができる。本博覧会では、より多くの人々が準備段階から連携し、**博覧会を創り上げる一員となること**を目指す。

## 行動変容に 繋げる Change

博覧会を通じて得られる気づきをきっかけに人々の**行動変容につなげる**ことを意識し、来場者が参加し体験できる仕掛けを展開する。この経験を博覧会参加後もそれぞれの**暮らしのなかで楽しみながら行動し続けることの重要性を伝える**。

## 分かち合う Share

博覧会に参加し、交流や体験で得た気づきやアイデア、行動変容の楽しさや重要性を身近な他者と分かち合い、博覧会のテーマ・サブテーマを**社会全体に広めていく一員となることを各々が意識**できる仕組みをつくる。

## 環境負荷低減を 徹底する Care

緑を都市に融合させ、生活空間と経済活動空間のより良い統合を目指す**グリーンシティの概念を可視化し世界へ発信**する。来場者や出展者、運営など、博覧会に携わる全ての関係者が環境負荷低減を徹底的に意識し、グリーンシティの実現を目指す。

## 領域を拡大する Expand

環境に配慮した経済復興（グリーンリカバリー）が世界で共通の認識となっている。また、都市やライフスタイルのあり方に変化がみられる。これに対応するため、博覧会を実験の場として、**世界共通の課題解決につながる個人の意識や産業の領域拡大**を目指す。